

1 windWorks とは何か？

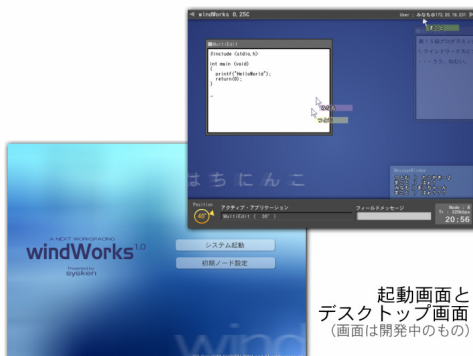
新次元ワークスペーステクノロジー

今日の高度情報化社会。ネットワークが世界を包み、すべてのコンピュータは“ひとつ”に繋がろうとしています。しかし「繋がる」とは一体何なのでしょう？ ネットサーフィンやメール交換、これらは全て「情報=データ」をネットワークで「共有」したに過ぎないのです。

私たちの提案するウインドワークスは、従来とは全く違った発想、つまり情報の「保存場所の共有」ではない、「生産場所の共有」というコンセプトを「視覚的」「概念的」面白さで包み、コンピュータを「空間的」に繋ぐ、新発想のネットワークコミュニケーションシステムです。

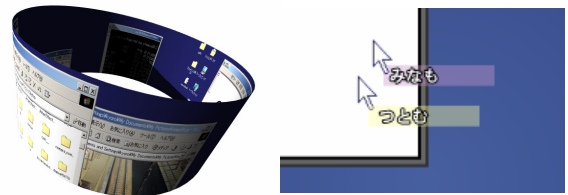
2 概要 windWorks というシステム

ウインドワークスとは「OS上で動作する補助的なOS」です。このシステムは利用者に対し Windows や Macintosh と同じようなデスクトップインタフェースを提供します。このインタフェース、つまりシステム上では専用のアプリケーションソフトを実行させることができます。このアプリケーションソフトはプラグインの形でシステムに提供され、ユーザサイドでの開発も可能です。このシステムを利用することで、ユーザは”第2の”デスクトップを手に入れることができるのです。



3 特徴 windWorks の独創性。

『なぜウインドワークスが”OS”の形を模して作られる必要があったのか？』それはシステムの新発想に起因します。本システムの最大の特徴は「デスクトップ作業領域の共有」です。つまりネットワークで接続された他のパソコンに続いた「同じデスクトップ領域」を使って作業ができるのです。各マシンのデスクトップは左右で他のマシンのデスクトップに次々と繋がり、ネットワーク上に広大な共有デスクトップを形成します。さらにその端同士は、まるで「地球」のように円環状に繋がっています。



この広大な領域には参加ユーザ数のマウスポインタが存在し、各々が好きな場所で好きな作業を行っています。また、マウスポインタは共有デスクトップ上で自由に行き来するため、3人で悩んでプログラムをしたり、隣の人のラブレターを覗き見したり、2人でオセロをしたり、まるで休憩時間に教室で遊ぶように複数の人間が同じ空間で「共同作業」を行うことが出来るのです。当然、領域はみんなの資産ですから、一人がデスクトップを散かせば隣の人に迷惑が掛かります。現代社会で失われつつある、「公序良俗」や「思いやり」を考えて行動することが、ウインドワークスには要求されます。各ノードの接続は P2P で行われ、サーバは必要ありません。よって、LAN でもインターネットでも、どこでも気軽に利用することが出来ます。丁寧に作り込まれたビジュアルは、使う楽しさを演出します。

動作環境

Windows 98/SE/Me/2000/XP
ビジュアル処理十分可能なビデオカード&CPUを搭載した環境
SDLライブラリを使用して動作します。